

私立大学研究ブランディング事業 成果報告書

学校法人番号	131029	学校法人名	上智学院		
大学名	上智大学				
事業名	「人間の安全保障」実現に取り組む国際的研究拠点大学としてのブランド形成				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	11220人
参画組織	経済学部、国際教養学部、総合人間科学部、総合グローバル学部、グローバル教育センター、国際協力人材育成センター				
事業概要	<p>貧困、環境、医療、難民、平和構築に関する問題は、国境を越え相互に関連しながら、人間の生存・生活・尊厳に深刻な脅威を与えている。本事業では、これらのリスク要因に対処し、「人間の安全保障」確保に向けた政策・制度の設計を、社会科学の視点から行う国際的研究拠点を形成する。それにより、グローバルかつ公益性の高い今日的課題の解決に向け、「他者のために他者ととともに」研究推進する上智大学ブランドを確立していく。</p>				
事業目的	<p>上智大学の様々な学部・研究科で行われている貧困、環境、医療、難民、平和構築などに関する研究活動を、「人間の安全保障」に関する研究として集約する。そのうえで、当該研究における国際的な研究拠点をづくり、研究成果を積極的に発信していく。これにより、「人間の安全保障」の実現に取り組む研究の拠点大学としての上智大学ブランドを作り上げるのが本事業の目的である。研究の集約にあたっては「上智大学人間の安全保障研究所」を設立し、ブランド確立にあたっては、研究面だけでなく、教育やキャリア形成支援などとも連携して全学的な取り組みを行う。</p>				

私立大学研究ブランディング事業 成果報告書

学校法人番号	131029	学校法人名	上智学院
大学名	上智大学		
事業名	「人間の安全保障」実現に取り組む国際的研究拠点大学としてのブランド形成		
事業成果	<p>「人間の安全保障」とは、それまで国家が対象であった安全保障を、一人ひとりの人間の安全へ拡大しようという考え方である。グローバル化が進み、様々な問題が国境を越えて互いに影響し合う現代において、国際社会が保持しなければならない概念と言える。その抽象性・広範性は、「人間の安全保障」の普及を妨げる一方で、「人間の安全保障」を非常に多くの現代的な課題を包含しうる概念にしている。本事業では、現代的な課題の解決に向けて上智大学で行われている様々な研究を「人間の安全保障」という共通の視点から捉え直し、成果発信の柱とすることによってブランディングを行っている。また、本事業の特徴は、「人間の安全保障」を実現するための研究推進を事業の核に据えつつ、その研究や取り組みを教育やキャリア形成支援とも連携させていく点にある。積極的に研究を推進する場に学生や人々が集まり、さらに将来のキャリア形成にもつなげていくことで、研究面だけではなく、より広範で強固な上智大学ブランドを形成するのが狙いである。</p> <p>この目標達成のため、本事業では「人間の安全保障」実現のための研究を推進し、それに関連した教育・キャリア形成支援活動を積極的に進め、さらに本事業活動を対外的に発信してきた。以下が主な成果である。成果の詳細は、次のリンク（2017年度 別添1）、（2018年度 別添1）、（2019年度 別添1）にある。</p> <p><研究面></p> <p>a) 人間の安全保障研究所の新規開設 私立大学研究ブランディング事業への採択を機に、新たに人間の安全保障研究所を開設した。研究所の構成は、貧困、環境、保健・医療、移民・難民、平和構築の5ユニットである。研究所設立以前にも、上智大学の様々な学部・研究科において、個々の研究者が独立に上記分野の研究を進めていた。これらの研究を「人間の安全保障」という概念で捉え直し、研究所設立で研究協力を進めることによって、より包括的な視点からの研究推進が可能になった。また、研究所の新設に際して、キックオフ・シンポジウム「社会科学研究を通して「人間の安全保障」実現へ向けて」を開催した。当研究所の社会科学研究を通して「人間の安全保障」実現に取り組むという姿勢を対外的に明確にすること、及び人間の安全保障上の諸課題を解決する上で、社会科学的な研究がいかに有効で必要とされているのかを大学生、高校生や一般の方に知ってもらうことができた。</p> <p>b) 研究の推進 研究所で取り組む、貧困、環境、保健・医療、移民・難民、平和構築の問題は互いに独立ではなく、相互に関連している。研究所全体では、これら相互に関連した5つの分野を、「人間の安全保障」をキーワードに包括する研究を目指しており、この取り組みを次の3段階で進めている、[第1段階] 各ユニットが「人間の安全保障」との関連を明確にしつつ研究を進める、[第2段階] 複数ユニットにまたがる研究を進めることで、複数分野間の相互関係を取り込む研究の推進、[第3段階] 5つの分野の相互依存を取り込む研究の推進、である。現在は [第2段階] の取り組みを進めているところで、複数ユニットにまたがる研究が始まっている。 また、各研究ユニットは、アフリカ、東南アジア、南アジアをフィールドに着実に研究を進め、国際学術誌などで成果を発表している。本事業により、海外研究者との共同研究や研究所研究員間での共同研究も新たに行われるようになり、研究促進の効果が現れている。</p> <p>c) 研究成果の対外的発信の強化 これまで研究成果の発信といえば、研究者個人が論文を執筆し、学術誌、学会、研究会などで発表することがほとんどであった。しかし、本事業を通して、研究所として研究員の研究成果を発信できるようになった。多様な手段で、研究の成果を公表できるようになっている。以下箇条書きになるが、研究所からの発信の具体例を挙げる。 研究者向け： ・研究セミナー ・ワークショップ ・研究所発行のディスカッション・ペーパー (Sophia Institute for Human Security, Discussion Paper Series) の発行 学生・一般向け： ・講演会 ・連続セミナー ・シンポジウム ・研究所webサイト開設 ・研究所リーフレットの発行 ・広報誌へのインタビュー掲載 ・Webマガジンへのインタビュー掲載</p>		

<教育>

a) 研究者の養成

研究の成果を教育へと反映させるものとして、次代を担う研究者の養成は一義的な目標である。本事業を通して、今後の取り組みの一つのモデルケースとなる成果が出ている。研究所所属の教員が学部学生とともにアフリカでランダム化比較実験を実施、卒業論文を改定した論文が国際学術誌に掲載されたというものである。

b) 上智大学生への啓発活動

「人間の安全保障」は非常に広範で包括的な概念であり、SDGsに比べ具体性が乏しいこともあって、その概念がとらえ難くなっている。連続セミナー、シンポジウム、講演会、スタディツアーを通して、人間の安全保障上の課題に対する関心を高めることができた。

c) 高校生への啓発活動

潜在的に将来の上智大学生である高校生に対し模擬講義を提供した。「人間の安全保障への関心が高まった」「学問研究と人間の安全保障の関連が理解できた」などの声が聞かれ、関心の高い学生の入学につながると期待できる。

- ・上智大学のオープンキャンパスで研究所開催の模擬講義を提供
- ・高校へ出張講義へ、研究所教員を派遣

d) 海外留学生向けプログラムへの事業内容の取り込み

上智大学では、2020年度秋学期から海外留学生向けに、英語講義のみで学位(学士)を取得できるプログラム Sophia Program for Sustainable Futures (SPSF) を開始する。SPSF の新設はスーパーグローバル大学創成支援事業によるものだが、本ブランディング事業からも、SPSFの新入生向け必修科目 First Year Lecture in /about Sustainable Futures、およびSPSF専門科目に、貧困、環境、保健・医療に関連した講義を提供することになっている。教育面での効果とともに、海外へのブランディング効果が期待される。

<キャリア形成支援>

上智大学には、国際協力関連の講義やセミナーを行う部署としてグローバル教育センター、および国際協力人材育成センターがある。いずれのセンターのセンター長も本研究所に所属しており、両センター主催のイベントに人間の安全保障研究所も共催の形で参加するなどして連携を図ってきた。また、これらとは別に、国際協力に参加した学生の体験を共有するための学生向けワークショップなどを研究所主催で開催した。人間の安全保障についての学びを、将来のキャリアにどう繋げることができるのかを示すことができた。

最後になるが、当ブランディング事業の事業費は、研究費として、実証分析のためのデータ購入、海外での現地調査や海外研究者招聘のための旅費などの目的に、広報・普及費としてシンポジウム・ワークショップの開催、研究所のウェブサイト開設、研究所リーフレット作成等に、その他として、PDや研究所事務員の雇用のために使用した。

今後の事業成果の活用・展開

上智大学は、建学の精神を実現するための行動指針に、(1)学問研究や社会貢献を通じて「人間の尊厳」を脅かす課題を解決すること、(2)「他者のために、他者とともに生きる人間」の育成、を掲げている。本事業の核となる「人間の安全保障」実現のための研究は、「人間の尊厳」を脅かす課題の解決に学問研究をもって貢献しようとするものである。また、研究を中心に据えつつ教育やキャリア形成支援とも連携する点は、「他者のために、他者とともに生きる人間」を育成するための試みになっている。こうした意味で、本事業の内容は、大学の建学の精神を実現するための一つの具体的な取り組みであり、さらに、それらに積極的に取り組むことそのものを上智大学ブランドの一つとして確立しようという事業になっている。

このため、私立大学研究ブランディング事業の終了後も、少なくとも当初の事業計画通り、5年間については学内予算で事業を継続する予定になっている。ブランド形成を通して、多様な背景を持った人々の交流を惹き起こし、「人間の安全保障」への取り組みを深化させて行きたい。

ところで、今後も本事業を継続していく上で、これまでの自己点検・評価および外部評価から明らかになった課題もある。個々の研究ユニットが研究成果を蓄積している一方で、研究所全体としてみたときには、1) 人間の安全保障研究の「国際的研究拠点」という評価を得るには至っていない、2) 5ユニットの研究を総合するような取り組みの強化が望まれる、というものである。

1)については、もちろん一朝一夕に国際的研究拠点になれるわけではない。長期的な目標達成に向けて、短期目標を設定し段階的に漸進し着実にステップを踏んでいく方針である。その過程において、海外の研究機関との連携のような補強策も考えている。

2)については、研究の初期段階から5分野全ての関連を取り扱うような研究に取り組むことは野心的にすぎるため、前述のように3段階で進めており、現在は「第2段階」の取り組みを行なっている。また、研究成果の見せ方にも工夫が必要だと考えている。新型コロナウイルス後の世界において、5分野の相互依存を考えると世界が協調していくこと、そして協調を進める上で人間の安全保障概念がますます重要になってきていることを発信して行く方針である。